

名古屋市立大学 SDGs活動レポート (2021年度版)



SDGs IDEA FORUM 2021の開催について



<p>活動の概要</p>	<p>名古屋市立大学では、令和元年7月に「SDGs 未来都市」に選定された名古屋市と連携して、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取り組みを進めています。2020年度に引き続き、2021年度においても、名古屋市と共催で、SDGs達成に向けた名古屋市の地域課題を大学生のアイデアで解決に導く「SDGs IDEA FORUM 2021」を開催します。</p> <p>【SDGs IDEA FORUM 2021における名古屋市の5つの地域課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■人々が健康に生きられるまちづくり（SDG3,SDG11,SDG16） ■名古屋の子どもたちにSDGsを広めよう（SDG4,SDG17,SDG11） ■名古屋から食品ロスを減らそう（SDG2,SDG4,SDG12） ■多文化が共生できるまちづくり（SDG3,SDG10,SDG11） ■名古屋を生物多様性先進都市に（SDG13,SDG14,SDG15）
<p>活動の時期</p>	<p>2021年8月～2022年2月</p>
<p>関連URL</p>	<p>SDGs IDEA FORUM 2021</p>



名古屋市の地域課題を、大学生のアイデアで解決する。

名古屋市は、2019年に「SDGs 未来都市」に選定され、SDGs達成のために市民が一体となって地域の課題を解決していくことが求められています。そこで、名古屋市にキャンパスを置く大学・短期大学の大学生から柔軟かつ革新的な発想を募集し、地域課題の解決を目指すプロジェクトをスタートします。



SDGs達成に向けた名古屋市の地域課題を公開。 学生が主体となり解決に。 アイデアコンテストを。 優秀アイデアには経費無償で実現。 優れたアイデアを募集。 授業・実習や授業外で。 持ち出し取り組みを支援。

2021年度は5つの地域課題を選定。



主催：SDGs IDEA FORUM 実行委員会（名古屋市・名古屋市立大学）
 後援：中日新聞社 名古屋銀行 朝日インテック

保健NGOとの連携



活動の概要	<p>一般社団法人Bridges in Public Health (BiPH) は、知づくり、場づくり、人づくりを通して、科学と社会、専門職と一般の人びと、地域と世界をつないでHealth for AllをめざすNGOです。BiPHを設立し、代表をつとめています。</p> <p>現在は、東ティモールでのJICA草の根技術協力事業の実施、コミュニティ活動のための書籍の翻訳、定期勉強会の開催などが主な活動です。</p> <p>勉強会共催、インターン受け入れ、草の根技術協力事業のカウンターパートとの共同研究など、本学の教育、研究との連携を行っています。</p>
活動の時期	継続中（2022年2月現在）
関連URL	<p>一般社団法人Bridges in Public Health WEBサイト</p> <p>一般社団法人Bridges in Public Health Facebookページ</p>
researchmap URL	https://researchmap.jp/read0145307
関連する論文	- Kyoko Sasaki. Associations between Infant and Young Child Feeding (IYCF) practice and attitudes toward intimate partner violence (IPV) in Timor-Leste. Nagoya: Nagoya City University Graduate School of Nursing (Master thesis); 2022.
期待される効果、今後の展望	<p>JICA草の根技術協プロジェクトでは、住民の健康ニーズを的確に把握できる人材の育成を実施中です。また、プロジェクトと橋渡しした大学院生の修士論文は、投稿準備中です。</p> <p>Helping Health Workers Learnの翻訳は5月ごろ発刊予定です。保健関係者だけでなく、コミュニティで活動している人びとに活用してもらえるようなしなやかなりにつなげていきます。</p> <p>NGOの強みと大学の強みを相互に生かして、今後も学生の受け入れ、協働した活動、共同研究、共同研究の橋渡しなどで連携していきます。</p>
所属	看護学研究科
氏名	樋口 倫代
専門分野	公衆衛生



草の根技術協プロジェクトのため予備調査

26-1

第26章 人間関係が健康に与える影響に注目する

世界保健機関（WHO）によれば、健康とは、身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態（ウェルビーイング）のことであり、単に病気や疾患がないということではない、とされています。私たちも同意します。

本書ではこれまで、いかに多くの場面で人的要因¹⁸⁾が健康とウェルビーイングを決定づけているか、ということをお述べてきました。ここで言っている「人的要因」とは、人がどのようにお互いに助け合ったり、助け合ったりするのかが、ということです。また、多くの人が病気になる背景に貧困がどのように潜んでいるのかも見てきました。そして第23章と第25章では、世界で起きている問題は、人口増加や土地や資源の不足が主な原因ではないことを論じました。問題は、不公平な分配—土地、資源、意思決定の権利が公平に与えられていないことに起因しているのです。つまり、このことです。

健康。それには技術的要因よりも社会的要因が大きく関わります。お互いが自立し、そして対等な立場で、友人のように助け合っていくことで、人は、そして家族、コミュニティ、国もまた、健康を手に入れることができるのです。

健康とは、自らの力を信じ進んでいくこと—

- 一人ひとりが。
- 家族が。
- 村が。
- 国が。

発刊予定の「Helping Health Workers Learn」日本語版（サンプル）

新型コロナ病棟の患者を応援するランチョンマットを提供



活動の概要	<p>病棟の内装などに芸術を取り入れる「ヘルスケア・アート」が専門の芸術工学研究科 鈴木賢一教授が、新型コロナウイルス感染症患者を受け入れる東部医療センターの病棟に、病院食トレーに敷くランチョンマットを提供しました。</p> <p>デザインは、同研究科博士後期課程3年で彫刻家の高野真吾さんが手がけ、表面にひまわり、千種公園の植物や虫のイラストを施し、裏面にはナンプレや短歌などを添えて、病室などでも楽しめるよう工夫しました。モノトーンの病室で長時間過ごす患者さんの不安解消に役立つと喜ばれています。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.42（2021年12月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年7月
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.42

瑞穂警察署と「大規模災害発生時における施設の一時使用に関する覚書」を締結



活動の概要	<p>2021年9月8日（水）、瑞穂警察署との「大規模災害発生時における施設の一時使用に関する覚書」の締結式が同署内で開催されました。</p> <p>本覚書は、地震・風水害などの大規模災害発生により瑞穂警察署庁舎が使用できなくなった場合に、警察署の機能確保のため、山の畑キャンパス内の学生会館や駐車場などのスペースを瑞穂警察署が一時的に使用できることを取り決めたもので、現地警察本部の設置や、全国から集まる救援隊などの駐車場としての使用が想定されています。</p> <p>出席した都理事長からは、「市民の安全を守ることは大切なことであり、今後の大学と警察のさらなる連携につなげていきたい」とのお話がありました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.42（2021年12月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年9月
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.42

本学学生が制作したSDGs関連動画が海外の映画祭で入選



活動の概要	<p>本学芸術工学部の栗原研究室の学生らが制作したSDGsに関連する動画が、海外の映画祭で高い評価を受けました。</p> <p>■South America Awards (STUDENT FILM COMPETITION) 【作品名】「SDGs MAN！」 ※学生映画部門で「最優秀脚本賞」「最優秀編集賞」を受賞</p> <p>■Los Angeles Theatrical release competition & awards finalist 【作品名】「女の子ごっこ (Girl's play)」</p>
活動の時期	2022年2月
関連URL	栗原研究室WEBサイト



SDGs IDEA コンテストを開催



活動の概要	<p>本学では、名古屋市と連携して、SDGs達成に向けた名古屋市の地域課題を大学生のアイデアで解決に導く「SDGs IDEA FORUM 2021」を実施しています。</p> <p>総数38件の応募アイデアのうち、厳正な書類選考を通過した優秀8チームが参加する「SDGs IDEA コンテスト」が2022年2月26日に本学さくら講堂で開催されました。</p> <p>当日は、参加した8チームによるプレゼンテーションが行われた他、本学SDGセンター副センター長でエコチル調査愛知ユニットセンター副センター長の榎原准教授（医学研究科）による講演等が行われました。</p>
活動の時期	2022年2月
関連URL	SDGs IDEA FORUM 2021



映像研究室作品が2021MBT映画祭にて佳作を受賞



活動の概要	<p>映像研究室作品が2021MBT映画祭（奈良県立医科大学主催 難病克服支援のための映画祭）にて佳作を受賞しました。</p> <p>受賞作品：Inner child（アダルトチルドレン症候群を題材にした作品）</p> <p>作品は、同映画祭にてサイトに公開中です。</p>
活動の時期	2022年1月（表彰式）
関連URL	2021 難病克服支援MBT映画祭

新型コロナ病棟に患者・医療スタッフのためのヘルスケアアートを贈呈



活動の概要	<p>医療や福祉の場に芸術を取り入れる「ヘルスケアアート」に取り組んでいる芸術工学研究科の鈴木賢一教授が、新型コロナウイルス感染症患者を受け入れる東部医療センターの患者・医療スタッフのためにヘルスケアアートを贈呈しました。</p> <p>贈呈した作品は、地元の東山動植物園の動物をあしらった紙コップとティッシュボックス、自然の風景を描いたトイレパーティション（間仕切り）、廊下壁面へ投影するデジタルアートで、オンライン開催したワークショップに参加した学生や市民らとともに医療関係者や企業の協力を得て制作したものです。</p> <p>協力：東山動植物園（動物の画像やイラスト提供）、株式会社サンゲツ（壁紙シート出力と貼り作業の協力）</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年11月
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.43

タシケント医学アカデミーとの学術交流協定締結 およ びウズベキスタン共和国駐日大使の来訪



活動の概要	<p>名古屋市立大学は、タシケント医学アカデミー（ウズベキスタン共和国タシケント市）と学術交流協定を締結し、2021年10月15日（金）にオンライン形式にて協定締結式を開催しました。先方よりアリシャール・シャドマノフ学長、アシソファ・フェルサ副学長、ムロド・ジャファロフ国際部長が、本学より郡学長、医学研究科の高橋研究科長と安井教授が参加し、今後の共同研究等をはじめとした交流について意見交換を行いました。</p> <p>また、協定締結式に合わせて、駐日ウズベキスタン共和国大使館のムクシンクジャ・アブドゥラフモノフ特命全権大使ご一行が本学を表敬訪問されました。その後、本学とウズベキスタン共和国内の大学との今後の交流について参加者らと話し合われました。</p> <p>※本件は本学広報誌『『創新』 Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年10月
関連URL	本学広報誌『『創新』 Vol.43

国際交流センター公式学生団体「NCU GO!」が Christmas Partyを開催！



活動の時期	<p>2021年12月12日（日）、国際交流センター公式学生団体「NCU GO!」により、留学生と日本人学生の交流を目的としたChristmas Partyが開催されました。本年度は十分な感染対策を行った上で対面で開催することができ、留学生と日本人学生合計約20名の学生が参加しました。和やかな雰囲気の中、ビンゴゲームやクイズ大会、プレゼント交換など楽しいイベントが行われました。コロナ禍では久々の対面でのイベント開催となり、留学生と直接コミュニケーションをとることができる素晴らしい機会となりました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年12月
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.43

ジャウメ I 世大学（スペイン）と大学間交流協定を締結！



活動の概要	<p>名古屋市立大学は、ジャウメ I 世大学（スペイン）と学術交流協定および学生交流協定を締結しました。2021年12月2日（木）にオンライン協定締結式が開催され、両大学学長および関係者らが出席しました。ジャウメ I 世大学のエバ・アルコン学長は、「日本との関係強化に向け、さらなる一歩を踏み出した」、名古屋市立大学の郡学長は、「スペイン語圏の国々から多くの学生を受け入れたい」とあいさつしました。締結式の後は、ジャウメ I 世大学の教員や職員による「スペイン短期派遣研修説明会」が行われ、学部生・大学院生が参加しました。今後、スペイン語圏との学生交流が活発となることを期待しています。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年12月
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.43

東ティモールパーツ大学との第2回オンライン交流講義 を開催！



活動の概要	<p>2021年11月11日（木）、本学看護学部の教室、パーツ大学公衆衛生学部の教室と同大学のフィールド実習サイトである2つの村をつないで交流講義を開催し、両校の学生、教員合わせて約250名が参加しました。本学からは、看護学部2年生3名が日本の保健師の仕事の紹介をし、看護学研究科博士前期課程2年生が東ティモールの公的データを使った研究結果を発表しました。パーツ大学からは、1年生と教員により公衆衛生学部の紹介があった後、村でのフィールド実習の様子について発表がありました。すべて英語で実施され、とても貴重な交流の機会となりました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年11月
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.43

「日本語Talk Time～雅～」を開催！



活動の概要	<p>2022年1月12日（水）、国際交流センターと同センター公式学生団体「NCU GO!」、「よいしょ」が合同で「日本語Talk Time～雅～」をオンライン開催しました。このイベントは日本語での交流を目的としており、タイ、アメリカ、ドイツ、韓国の国際交流協定大学と名市大の学生あわせて55名が参加しました。教員と学生団体が企画した5つのブレイクアウトルームが用意され、参加者は各自興味のあるルームに参加する形式で行われました。特に参加者へ漢字の名前をプレゼントするコーナーでは大いに盛り上がりました。コロナ禍でも国際交流協定大学の学生とつながることができた貴重な機会となりました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年1月
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.43

鶴舞中央図書館主催 絵本の読み聞かせイベントに本学 留学生3名が出演！



活動の概要	<p>2021年12月11日（土）に、鶴舞中央図書館の主催、本学国際交流センターの協力により、「せかいのことばでおはなし会」が開催され、本学の留学生3名がゲスト出演しました。2014年から毎年開催されており、今年で9回目の開催となりました。このイベントは、留学生がそれぞれの母語で絵本の読み聞かせをするというもので、本年は中国語、英語、韓国語で行われました。4歳前後のお子さんやその保護者の方計10名の参加があり、絵本の朗読の他、出身地の紹介やそれぞれの言葉で「ジングルベル」を一緒に歌うお楽しみ時間が設けられ、参加者みんなでの交流が行われました。イベント終了後には、出身地に関して留学生に質問をする子どもの姿も見られました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年12月
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.43

国立台北護理健康大学との学術交流協定を締結しました



活動の概要	<p>2022年3月17日、国立台北護理健康大学（台湾）と学術交流協定を締結しました。オンライン形式にて交流協定締結式が開催され、両大学の学長はじめ、関係者が出席しました。国立台北護理健康大学の吳淑芳（ウー・シュー・ファン）学長は、「ウィンウィンの関係を築いていけることを確信している」、本学の郡理事長は、「分野を問わず、大学全体として実りのある今後の交流に期待する」と述べました。</p> <p>また締結式後には、先方大学の「研究開発センター」と本学看護学研究科の共催により、オンラインセミナーが開催され、それぞれの大学の教員と博士課程学生が発表を行いました。セミナーには双方の教員と学生が多数参加し、大変実りのあるものとなりました。今後ますますの交流が期待されます。</p> <p>※本件は本学広報誌『『創新』 Vol.44（2022年6月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年3月
関連URL	本学広報誌『『創新』 Vol.44